

ボラマガ

～ボランティアセンターマガジン～

平成30年12月15日号 第45号

発行 社会福祉 神栖市社会福祉協議会 ボランティアセンター
法人 人
〒314-0121 神栖市溝口1746番地1
TEL : 0299-93-1029 FAX : 0299-92-8750
ホームページ <http://www.kamisushakyo.com/vc/>
※ホームページではこの広報紙に掲載している写真をカラーでご覧になれます
メールアドレス mail@kamisushakyo.com

神栖市内で活動する

ボランティア 今昔物語

点字点訳グループ

「ひとみの会」

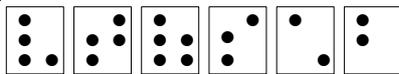
結成26年目を迎えた歩みの中でポイントとなった「あんなこと、こんなこと」を会員の皆さんと当時の出来事とともに振り返ります。



1992
平成4年

ひとみの会誕生

社協主催の点字講座を受講した小島真知子さん(ひとみの会代表)を含めた3名が中心となり結成したひとみの会。文字を点字に翻訳する(点訳)活動ではじめに手がけたのは、視覚障害のある方の暮らしに役立つ献立表や電話帳などでした。「当時は点字タイプライターを使って一文字ずつ、全て手作業で行っていましたし、出来上がった文章に誤りがないか点字辞典を片手に確認するなど、点訳には時間がかかりました。技術向上のために通信講座や県立点字図書館の講習会にも通っていました。」と小島代表は当時を振り返ります。



ひとみのかい

点字は、縦3点×横2点の6つの凸状の点の組み合わせによって表されます。

1998
平成10年

点訳のOA化

社協の点字講座は以降も開催され、その修了生などが加わって会員は20名となりました。社協や市の広報紙(当時町)の点訳も手がけるようになり、今ではメーカーが対応している携帯電話や電化製品の取扱説明書など、個人や県立点字図書館からの依頼にも取り組みました。

これらの活動を可能にした立役者が、この頃急速に普及したパソコンでした。点訳ソフトに原稿の文字データを読み込ませると、漢字などが「かな」に自動変換され、点字プリンタから点字文書が高速に印刷できるようになりました。

パソコンは、社協を通じて不要となった物の寄付を呼びかけたもので、多くの方からの申し出に、ひとみの会のみなさんは大変感謝したとのことでした。



点訳作業にパソコンが導入されました

2003
平成15年

活動の広がり

平成12年に市が設置した保健・福祉会館内のボランティアセンターには点訳室が整備され、新たな活動拠点ができました。活動を通じて知り合えた視覚障害のある方達と近郊の行楽地に出かけるなどの交流会を催したり、盲導犬の訓練施設へ研修に向いたり、点訳以外の活動も膨らみました。会員の中には、外出時に視覚障害のある方の歩行介助ができるようにとガイドヘルパー資格を取った人もいます。また、社協

が実施するイベントや福祉教育出前講座への協力も積極的に行いました。社協職員と訪問した小学校では、点字を通じて視覚障害のある方への配慮や理解を深めてもらう活動として、点字で自分の名刺を作成し、友達と交換して読んでみるといった内容で子ども達との交流も増えました。



福祉教育出前講座で小学生に点字を教える会員の皆さん

2013
平成25年

会員個々のライフスタイルにあわせて 結成20年を経過し、設立当初からの会員の中には、仕事を始めたり、引越をしたりとライフスタイルにも変化が出てきました。通信教育で点字を学んで市外から入会したり、小学生の頃に福祉教育出前講座でひとみの会に点字を教わり興味をもって入会したりと新たな会員も増えました。当時は仕事が忙しく、点訳作業が出来ない時は、仲間に癒しを求めて活動後のランチミーティングには顔を出していたというエピソードを受けて、会員の水野さんは「ひとみの会は、会員みんなが“ボランティア”という活動を理解しているんだと思います。その時々で活動ができる範囲が違うのは当然。今できる人がやっておきましょうという空気感がひとみの会の居心地の良さなのよね」と、締めくくってくれました。

2018
平成30年

物語はこれからも続きます 現在ひとみの会は毎月2～3回ボランティアセンターに集まり、視覚障害のある方6名に届けられる社協や市の広報紙の点訳を中心に活動しています。会員は12名。

「便利な時代になりましたが、点字広報紙を待ってくれる人がいる限り仲間と一緒に活動していきます」と代表の小島さんが物語の続きを語ってくれました。



代表の小島真知子さん

■ひとみの会の活動等に関する問合せ先

神栖市社協ボランティアセンター 担当：大久保 TEL 0299-93-1029

シリーズ 私たちの！わくわくサロン自慢



サロンは、地域の高齢者や障害者、子育て中の親子が公民館などの身近な場所に集まって気軽に楽しい時間を過ごす活動です。

12月3日(月)におじゃました“友愛サロン”は、平成30年を締めくくる開催となり、11名の参加がありました。

リハビリ体操やギター・ハーモニカの演奏、踊りの披露など、たくさんのプログラムのほとんどを一芸に秀でた協力ボランティアが担っています。参加者のひとりが「お料理上手が作る昼食も元気の源です。みんなで楽しく食べれば、サロンを休まず、毎回参加できるんだよ」と話してくれました。

👑 ココが自慢!

友愛サロンの自慢は、協力ボランティアによるギターとハーモニカの生演奏。その優しい音色に合わせてみんなで歌います。この日も、懐かしい唱歌やクリスマスソングなど全12曲を歌いました。

多くの参加者から、「歌うことが一番楽しい」との声があがる、のど自慢が揃うサロンでもあります。



クリスマスツリーをバックに演奏中

サロンデータ	
サロン名	友愛サロン
開設日	平成22年10月
開催日時	毎月第1月曜日11時～14時
会場	溝口農村集落センター
協力者	10名
代表者	三宅昌子さん
参加費	500円

人生を楽しもう!! 『輝くための男の講座』 報告

神栖市社協が今年で4回目となる、60～70代男性のセカンドライフの充実を目的とした『輝くための男の講座』を開催しました。



1日目(10月3日) そば打ち
講師:二八そば越後(神栖市土合中央)
水島義治氏、水島文夫氏



2日目(10月11日) 網戸の張り替え
講師:神栖市シルバー人材センター会員
藪田紀仁氏、森田栄一氏、城之内一男氏、林崎正三氏



3日目(10月25日) 庭木の剪定
講師:神栖市シルバー人材センター会員
伊橋敏夫氏、立原繁吉氏



4日目(10月29日) ランチ作り&交流会
講師:神栖市社協 栄養士 根本孝枝

10月3日から10月29日にかけて、『そば打ち』『網戸の張り替え』『庭木の剪定』『参加者同士の交流とボランティア活動の紹介』の4つのプログラムに5名が参加しました。

プログラムの講師は、各分野のエキスパートの方々。参加者の皆さんは、初日こそ緊張した様子でしたが同年代ということもあり、回を重ねるごとにお互いが打ち解け、日常生活にも役立つ技術を学んでいく喜びで、表情が輝きを増していきました。

講座修了後には「またひとつ人間関係の輪が出来て嬉しかった。人生を楽しみながら、新たに出会った仲間と共に、社会にも貢献していきたい」という声が上がっており、社協のボランティアコーディネーターと共に今後の活動について話し合いを継続しています。

ボランティアセンター登録グループから会員募集のお知らせ

◇ビューティサポートスマイル◇

高齢者福祉施設を訪問し、女性にはメイクやネイルケアを、メイクの苦手な方や男性には顔のスキンケアやハンドマッサージを行い、元気をお届けしているグループです。

高齢者の方々にメイクで笑顔にする活動を一緒にしませんか？

■活動日：毎月第3木曜日に市内施設を訪問 ■会費：なし

※上記以外の依頼には相談の上、随時対応

■問合せ先：ビューティサポートスマイル 代表：池田瑞江 TEL 090-7013-8135

ボランティアセンター 担当：大久保 TEL 0299-93-1029



現在、会員3名で活動中

年末年始、自宅で気軽にできるボランティアがあります

ご自宅でできるボランティア活動に「収集ボランティア活動」があります。年末年始はまとまった時間がとりやすく、年賀状印刷や大掃除などで使用済インクカートリッジ、書き損じハガキ、衣類や頂き物のタオルなど様々な物品を発見できるイベントがあるため、収集ボランティア活動を始めるのにぴったりの時期です。以下の物品(衣類以外)の寄付は、ボランティアセンターで受け付けています。

お問い合わせ 神栖市社協ボランティアセンター 神栖本所 電話:0299-93-1029(担当:大久保)
波崎支所 電話:0479-48-0294(担当:横田)

■書き損じハガキ (通常のハガキ、年賀ハガキ等)



書き損じハガキは、「空飛ぶ車いす」の活動支援をしている(財)日本社会福祉弘済会に送られ、切手に交換されます。協力企業がその切手を購入することで換金されます。

※空飛ぶ車いすは、使われなくなった車いすを修理・再生し、車いすが不足している国々に贈る活動です。書き損じハガキの収益は、車いすの修理部品代や輸送費として活用されます。

■衣類



神栖市社協では、衣類の受入を行って、次の2団体を紹介させていただきます。

大掃除で出た“まだ着られるかも”と迷う衣類などがありましたら、ぜひご活用ください。

※いずれも、送料は送り主負担となります。

※下記団体へ衣類を送るときは、事前に電話で問合せをしてください。

●認定NPO法人 ブリッジ エーシア ジャパン

- ・電話 03-3372-9777
- ・ホームページ <http://www.baj-npo.org/>
集めた古着をリサイクル業者が買取り、その収益がミャンマー、ベトナム支援にあてられます。

●認定NPO法人 日本救援衣料センター

- ・電話 06-6271-4021
- ・ホームページ <http://www.jrcc.or.jp/>
集められた衣料品がそのまま海外に贈られ、支援に役立てられます。

お寄せいただいた善意は、毎月1日新聞折込の「かみす社協ニュース」でご紹介させていただきます。

■ベルマーク

■使用済みインクカートリッジ、トナー



2,000種類以上の商品に付いているので、普段の買い物でも自然に集まります。神栖市社協に集められたベルマークは、ベルマーク仕分けボランティアの皆さんが協賛会社ごとに集計しベルマーク教育助成財団へ送り、1点1円換算で、地震等による被災校の教材・備品購入に役立てられます。



使用済みインクカートリッジは1つにつき5点、使用済みトナーは1つにつき50点分のベルマークになります(エプソン、キヤノン、ブラザー純正品に限ります)。

■タオル、布(未使用のもの)



市内の障害者施設へ送られます。障害者施設では、タオルや布を加工して販売し、その収益金が障害者の方への報奨金や施設の活動資金として活用されます。

※柄、会社名等が入ったものでも構いません。

■使用済み切手やカード(テレホンカード、図書カード、クオカード等)



使用済み切手やカードは、市町村社協を経由し茨城県社協に集められ、専門業者等が買い取ります。そのお金が茨城県ボランティア基金に積み立てられ、県内のボランティア活動支援に活用されます。切手は周囲5~10mmの余白を空けて切り取って下さい。

平成最後の年末年始がやってきました。今年最終号となるボラマガは、平成4年から活動を続けている「ひとみの会」さんのこれまでの歩みについて特集しました。

皆様、今年もボランティアセンターマガジンをお読みいただきありがとうございました。よいクリスマス、年末年始をお過ごしください。

